

施策の展開 V 「水産業に関する県民理解の促進と地域環境の整備」

～「水産業及び漁業地域の多面的機能の発揮」(条例第8条第1項第5号関係)～

【取組状況・成果】

1 生産から消費までの情報の提供・共有と食育の推進

次世代を担う若年層の水産物に対する理解を深めてもらうため、小学生等を対象として漁協女性部等が実施した料理教室等において、水産業普及指導員等が本県の水産業の現状、養殖水産物の生態等について指導しました。

また、消費者に本県水産物に対する理解を深めてもらうため、本県の養殖水産物等を用いた料理教室の開催を支援したほか、食育推進のため、地域食材を活用した給食メニューを開発し、関係者と意見交換を行いました。

さらに、本県の「食」に関わる方々が連携・協働しながら地産地消やブランド化の取組を進めていくための情報交換等を行う場として設置した「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」は、平成20年9月8日に第2回大会を開催しました。

【平成20年度の主な実績・成果】

(1) 子供達の水産物消費の拡大に向けた取組の推進

イ 地域水産業への理解を促進するため、小学生を対象として宮城県漁協女性部等が実施した地域水産物の料理教室等への支援・指導を行いました。

[水産業振興課及び東部・気仙沼地方振興事務所]

ロ 学校給食等において地域食材を利用するとともに、伝統食文化の継承を図るため、地域水産物を利用した給食メニューの開発・提案を行い、給食素材メーカーや給食センターと意見交換を行いました。

[水産業振興課及び水産技術総合センター(水産加工開発部)]

(2) 積極的な情報提供による流通業者等及び消費者の理解促進

県の食産業振興施策のテーマとして掲げる「食材王国みやぎ」について、農林水産物の生産者、製造業者、小売業者、消費者等の「食」に係わる関係者が連携・協働しながら、それぞれの立場で「食材王国みやぎ」を効果的に実践・発信していくことを目的に、情報交換の場として設置した「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」が、平成20年9月8日に第2回大会を開催しました。その中で、10月1日から11月30日までの2か月間を「食材王国みやぎ地産地消推進月間」に定め、さらにこの月間中は第3金・土・日曜日も「食材王国みやぎ地産地消の日」に定めることで、地産地消の取組をさらに推進することとしました。

また、食ブランド化のための人材育成を目的として、生産者・製造者を対象としたブランド化実践セミナー、ブランド化デザインセミナー、個別相談会等を開催し、延べ195名が参加しました。

[食産業振興課]

※平成20年度実績

- a. 食材王国みやぎ「食ブランド化」セミナー 実践講座
開催日：平成20年11月26日、28日
参加者：12社12名
- b. 食材王国みやぎ「食ブランド化」セミナー 個別相談会
開催日：平成20年12月8日、10日
参加者：6社6名
- c. 食材王国みやぎ「食ブランド化」推進セミナー
開催日：平成21年2月3日
参加者：85名
- d. 食材王国みやぎ「食ブランド化」デザインセミナー
開催日：平成21年2月9日
参加者：92名

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
食産業振興課	2,792 [2,709]	みやぎのおいしい「食」ブランド化推進事業(再掲)
水産業振興課	3,064 [2,774]	沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲) 食育推進のための製品開発及びブランド化構成要素の調査研究(再掲)

2 漁村地域の景観及び環境の保全

漁村地域が持つ自然環境や景観を守るため、親水機能に配慮した漁港海岸づくりに取り組みました。

【平成20年度の主な実績・成果】

(1) 親水機能に配慮した漁港・海岸づくりの促進

漁港環境整備事業では、松島町磯崎地区において緑地整備・親水護岸等の整備を行っています。

この地区は、日本三景の一つである『特別名勝松島』に位置し、多くの観光客が訪れてい

ますが、地区周辺には、親水施設等の海洋性レクリエーションに対応する施設がなかったことから、当該環境整備事業により、親水護岸、散策施設等の整備を図り地元漁業者と周辺都市住民との交流・憩いの場を創出するものです。

[水産業基盤整備課及び仙台地方振興事務所]

※平成20年度実績(県事業)

磯崎漁港(親水施設) 護岸 116m

(2) 漁業系廃棄物の適正な処理とその普及

イ 仙台湾で大量に発生したヒトデ対策として、回収したヒトデの有効利用を図るための、堆肥化実証試験を行いました。

[水産業振興課、水産業基盤整備課、仙台・東部地方振興事務所、水産技術総合センター及び畜産試験場]

ロ 産業廃棄物として排出されるマボヤ外皮の有効利用を図るため、有用成分の分析や抽出方法研究を行いました。

[水産業振興課、水産技術総合センター(水産加工開発部)]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業振興課	2,341 [1,699]	ヒトデの有効活用に関する研究(再掲) マボヤ外皮の有効利用研究
水産業基盤整備課	130,000 [124,000]	漁港環境整備事業

3 快適で住みよい地域環境の整備

災害に強く、快適で豊かな漁業地域の生活を実現するため、漁港海岸の保全施設整備や、下水道施設等の生活基盤の整備及び海岸を活用した公園等の憩いの場づくり等、漁業地域のインフラ整備を推進しました。

【平成20年度の主な実績・成果】

(1) 漁港及び海岸の防災施設整備の推進

今後高い確率で発生すると予想されている宮城県沖地震等に対応するため、海岸保全施設

の整備を推進しました。

[水産業基盤整備課及び仙台・気仙沼地方振興事務所]

※平成20年度実績

気仙沼漁港海岸ほか17か所で護岸や陸こうを整備

(2) 下水道施設等生活基盤の整備，海岸を活用した公園等のインフラ整備の推進

塩竈市の野々島は，現在生活排水が未処理のまま海域へ放流されているため，今後，漁業生産や観光資源に与える影響が懸念されています。

そのため，快適な生活環境の創出を目的として，塩竈市が実施する集落排水処理施設の整備を支援しました。

[水産業基盤整備課及び仙台地方振興事務所]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業基盤整備課	559,608 [557,560]	海岸保全施設整備事業 漁業集落環境整備事業

4 都市や農山村との交流促進

県民に本県水産物のサポーターとしての役割を担ってもらうため，都市住民等を漁村地域に招き，水産業への理解の促進を図りました。

【平成20年度の主な実績・成果】

(1) 漁業地域における都市住民との交流促進

県単位で組織する漁業青壮年・女性団体が実施した農山村担い手団体及び都市住民との交流事業に対して指導・支援を行いました。

[水産業振興課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

(2) 海や海洋生物とのふれあいの促進

普段あまり海に接する機会が少ない県内の小学生とその父母を対象として，漁業の仕組みや魚介類の知識を深めてもらうための体験学習を開催し，水産業への理解の醸成を図りました。

[水産業振興課及び水産技術総合センター]

【主な事業】

課 名	事業費(千円) [決算額]	事 業 名
水産業振興課	2,409 [2,119]	沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲)

○「食材王国みやぎ地産地消の日」の制定

(関連事業：食育・地産地消推進事業、みやぎのおいしい「食」ブランド化戦略推進事業)

1 経緯

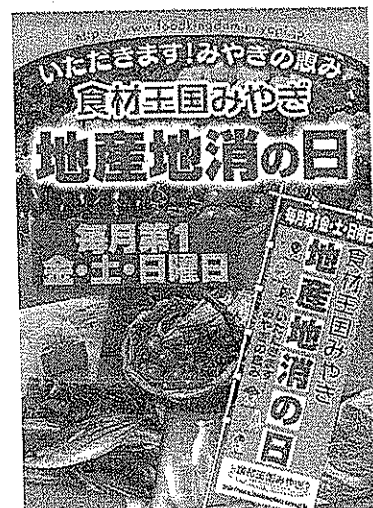
「地産地消」は、地域で生産されたものをその地域で消費する意味に加え、消費者の食料に対する安全・安心志向の高まり等を背景に、地域の消費者ニーズに即応した生産と生産された農林水産物を地域で消費する活動を通じて生産者と消費者が結び付く取組を意味するようになりました。

県では生産者、製造業者、流通・小売業者、外食事業者、消費者等の皆様にそれぞれの立場で御理解と御協力をいただきながら、「地産地消」を県民運動として推進するため、毎月第一金曜日・土曜日・日曜日を「食材王国みやぎ地産地消の日」に制定し、平成20年4月からその普及・定着に努めています。

2 概要

「食材王国みやぎ地産地消の日」には以下のような展開を図っています。

- (1) 販売店等における県産品の販売を促進しています。
- (2) ホテル・レストラン・飲食店等での県産食材メニュー等の提供を促進しています。
- (3) 学校給食等での県産品メニューの提供を促進しています。
- (4) 県産品や食文化への理解を深めるイベント等の開催を促進します。
- (5) ワンコイン運動（家族4人で、今までより毎月500円多く県産品を購入すること）を推奨しています。
- (6) 旬の食材等の情報をホームページやメールマガジン等を活用して発信しています。



さらに、食の関係者が一体となって、一層の「地産地消の推進」や「食材王国みやぎ」の普及を図っていきたいとの思いから、平成20年9月8日(月)に開催した「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議第2回大会」で提唱し、出席者の賛同を得たことから、「食材王国みやぎ地産地消推進月間」を定めることとしました。「食材王国みやぎ地産地消推進月間」は、実りの秋、収穫の秋を迎え「旬」の食材等が新鮮かつたくさんで流通するとともに、「食」に関するイベントも多数開催される等、県産食材を理解しおいしく味わう機会にも恵まれる10月1日から11月30日までの2か月間としました。

なお、「食材王国みやぎ地産地消推進月間」期間中は、第3金曜日・土曜日・日曜日も「食材王国みやぎ地産地消の日」とし、「食材王国みやぎ地産地消の日」を月2回にすることにより、地産地消の取組を更に促進するとともに、期間中に開催された「みやぎまるごとフェスティバル」等のイベントにおいて積極的にPRしました。

今後も「食材王国みやぎ地産地消の日」のPR、各事業者の方々の取組については、ホームページ等でお知らせしていきます。

(食産業振興課)

○「美味し国 魚市場」ホームページの開設

1 実施の背景

石巻・女川管内の水産加工業は経営体数が多く、従事者数は石巻市で約5,000人、女川町で約1,100人で地域の経済を支える基幹産業となっています。また、平成17年の製造品出荷額は、石巻市と女川町合わせて863億円で、宮城県全体の水産加工品出荷額の32%を占めています。

製造された製品は、石巻商工会議所主催のフード見本市で高い評価を受けているほか、宮城県水産加工品品評会において毎年多くの受賞品を輩出しています。

しかし、それらの水産加工品の商品情報については一覧できるものがなく、こだわりの原料でこだわりの商品を作っていることも消費者には伝わりにくく、地元スーパー等で扱う商品の種類や数量、取扱期間には限りがあることから、優れた商品が多数あるにもかかわらず地元消費者へのPR等が十分とは言えない状況にあり、総合的な情報提供の場がメーカーと消費者の双方から求められていました。

2 取組内容

地元の水産物及び水産加工品に対する理解の醸成と地産地消を推進するため、平成20年10月に宮城県東部振興事務所のホームページの中に「美味し国 魚市場」を開設しました。石巻市と女川町の業者とその商品情報、さらにそれらを扱う直売店やネット販売の問い合わせ先等を総合的に紹介しています。

平成21年3月現在の掲載業者数は、直売店23社、インターネット販売22社、総合直売所4カ所です。掲載業者は現在も引き続き募集しています。

鮮魚販売

魚加工



「石巻・女川」の誇る水産物や水産加工品をご紹介します「美味し国 魚市場」
豊かな自然の恵みに感謝し、安全・安心な商品をお届けします。
地元の方も、観光で来られる方も、安心できる海の幸を一度ご賞味下さい。

石巻・女川の真面目な生産者の元気な笑顔とともにご覧下さい。
《今週の魚》

商品別の生産者ご紹介
(画像をクリックすると詳細が表示されます。表示されたアドレスをクリックして下さい。)

<p>鮮魚</p> <p>鮮魚詰め合わせ70円売場業者の方をご紹介します。</p>	<p>魚卵</p> <p>たらこなど、魚卵の製造業者の方をご紹介します。</p>	<p>かき ぼや ぶり 赤ダマ</p> <p>かき、ぼや、ぶり、赤ダマ、しじみ、蟹などの販売業者の方をご紹介します。</p>
<p>魚加工品</p> <p>塩干品、おひん干し、鰯漬け、味噌漬け、みりん漬けなど加工品の業者の方をご紹介します。</p>	<p>魚刺物</p> <p>ささみ、あじかま、もぐりなど魚刺物の製造業者の方をご紹介します。</p>	<p>ウカメ、海菜、珍味、その他</p> <p>ウカメ、海菜のり、海菜、珍味の加工業者の方をご紹介します。</p>

(ホームページの画像)

ホームページ URL

<http://www.pref.miyagi.jp/et-sgsin/Suigyo/suisankakou/suisankakou.html>

(東部地方振興事務所)

○ヒトデの有効活用に関する研究

1 経緯

宮城県沿岸域の海底には、マヒトデ、イトマキヒトデ、スナヒトデ、ニッポンヒトデ等多くのヒトデが生息しています。腐肉食性のヒトデは海の生態系維持にとって重要な役割を果たしていると同時に、アカガイ等の有用漁業資源を食害するだけでなく、底曳き網等に大量に入網して操業の障害にもなります。さらに、一旦船上に上がったヒトデは、利用法もなく陸上処理体制も整備されていないことから、再び漁場に戻されているのが実情です。

このようなことから、混獲されたヒトデを適切な方法で処理し、有効に利用することが課題となっていました。

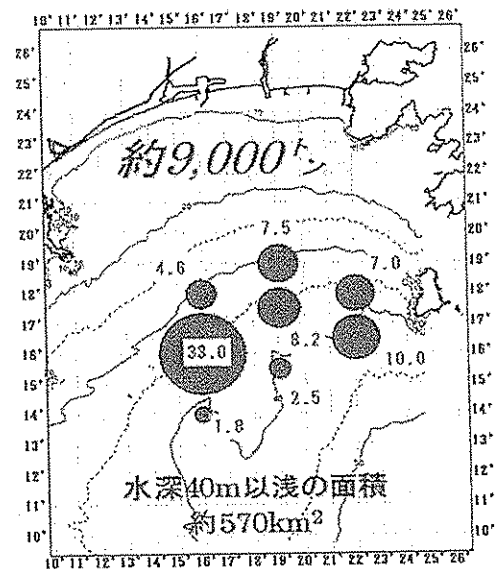
ヒトデの利用法としては、以前から一部の地域でヒトデを天日乾燥して肥料として畑に入れていたことから、ヒトデのたい肥化について、水産技術総合センターと畜産試験場が連携して技術開発に取り組みました。

2 結果

水産技術総合センターでは、石巻湾におけるヒトデの分布やアカガイに対する食害試験等を行いました。その結果、石巻湾の水深40m以浅に約9,000トンのヒトデが生息することがわかりました。また、ヒトデの大きさ別のアカガイ捕食の実態が実験的に明らかにされ、駆除の必要性が確認されました。

畜産試験場ではヒトデのたい肥製造工程中の臭気の抑制やたい肥製造原料の組み合わせ等を検討しました。その結果、臭気発生を植物油添加により抑制することができました。また、牛たい肥、もみ殻、ヒトデ、廃食用油を原料とした組み合わせでの製造が低コストで可能なことも確認されました。

ヒトデたい肥を用いたホウレンソウの栽培試験では、牛糞たい肥に比べて15%程度の収量増となりました。



新鮮なヒトデをその場で処理



ホウレンソウの栽培試験

(水産技術総合センター)

○岩手・宮城内陸地震による内水面漁業被害と被災者支援

(関連事業：養殖衛生管理技術開発事業・サケ科魚類遺伝資源保存事業)

1 経緯

平成20年6月14日午前8時43分、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード7.2の大規模な地震が発生し、岩手県南部及び宮城県北部を中心に激しい揺れに見舞われました。

宮城県栗原市では最大震度6強を観測し、家屋の損壊はもとより、道路の崩壊や大規模な地滑り、土石流の発生等多くの建物被害、土砂災害が発生しました。

2 概要

この地震による宮城県の被害は、死者・行方不明者18名をはじめ、平成20年度末時点で1,094億円あまりに達しています。水産業関係でも栗原市の花山地区、栗駒耕英地区でイワナ、ヤマメ等の養殖施設に総額1億円近い被害が発生しました。

さらに山地の土砂災害によって、山間地域の河川が各地で寸断される等、溪流釣りの好適地が多く失われる状況となり、内水面漁業全体が大きな被害を受けました。

現在も多くの地域は危険防止のため立ち入ることができず、河川関係の被害はその全容そのものが明らかになっていない状況です。

3 対応

県では、水産業関係の被害状況把握のため、内水面水産試験場を中心にこまめな現地調査を実施し、被害状況の把握に努めるとともに、被災者との面談を行って今後の復興や支援についても検討してきました。

栗駒耕英地区はイワナ養殖発祥の地とされ、地区の内水面養殖場は養殖や放流用種苗の供給はもとより、地元旅館への食材提供や釣り堀等のレジャー客の受け入れ等、地域の貴重な収入源である観光産業も支えており、重要な役割を果たしています。

県では、一日も早い復興を願い、被災した内水面養殖業者に対して技術指導や相談業務を行いました。また、地震によって多くの養殖魚が流失する被害も発生したことから、養殖業の継続のため、希望者に対して内水面水産試験場で採卵したイワナの種卵を廉価で提供する等の災害復興支援も行いました。

4 今後の取組

内水面漁業の復興は地域全体の復興を図る上でも重要であることから、今後も引き続き支援を行っていきます。



地震で崩壊した山（栗駒地区）



成長したイワナ稚魚（内水試提供卵）

(水産技術総合センター内水面水産試験場，水産業基盤整備課，水産業振興課)